

JPIC NEWS LETTER

通巻 130号

2011年11月18日

BOOK EXPO 2011 秋の陣 ～生まれ！関西書店人～

◆去る11月11日(金)に大阪市・梅田スカイビル「アウラホール」において「BOOK EXPO 2011 秋の陣～生まれ！関西書店人～」(主催：同実行委員会、世話人代表：田村定良・田村書店代表取締役、代表幹事：萩原浩司・宮脇書店大阪柏原店 代表取締役、事務局：JPIC)が開催されました。134社の出展社と402店・672名の書店人が集いました。成立した商談は3,223件、58,805,101円と大きな成果を挙げることができました。



当日朝は、あいにくの雨模様ながら、11時の開会と同時に、多くの書店人が早足で目当ての出展社ブースに向かい、いよいよ商談会がはじまりました。

開会早々から、会場は混雑し、雨も上がった昼過ぎから4時ごろまで入場者のピークが続き、会場内はずっと満員状態でした。

会場の入口脇に設けたイベントコーナーでは、5つのプログラムが行われ、いずれも盛況ぶりでした。とくにスタンダードブックストアの中川和彦社長を迎えての「こんな本屋があってもいいじゃないか！～自分が好きなものを売りたい～」とイハラ・ハートショップの井原万見子店長を迎えての「本屋を続ける理由」は立ち見客で会場入口がふさがれるほどの人気でした。書店業の不況が長引くなかで、「書店の展望や基盤を改めて見直す」プログラムに、とくに注目が集まったようでした。

出展社の皆さまの声では、「首都圏書店大商談会にも出展したが、こちらの方がさらに反応がいい。やはり、普段、首都圏の書店様ほどていねいにコミュニケーションがとれていないことを反省する」「若い書店人が中心になって企画・準備し、取次全社がそれを支えて開催できたこの会に、こんなにた

くさんの書店人が集ったのは、出版業界にとって意義あることだと思う。出版社は、良い企画を用意して出展することで応えたい」旨のコメントが多数。

来場書店様からも「普段、なかなか話をできないような版元と直接話ができ良かった。今日商談したものでなく、今後の情報収集、仕入れに役立つと思う」「出展社・来場書店ともにたいへん数が多いので、もっと時間があれば、それに伴い成果も上がると思う」と、こちらも好評でした。

16時30分に閉会后、同会場内で懇親会が催され、350名余りの関係者が出席し、商談会とは違ったかたちで情報交換しつつ懇親を深めることができました。

萩原代表幹事や堀博明幹事(堀廣旭堂専務)、田村正良幹事(田村書店専務)は、「BOOK EXPOの開催に携わっている者は皆、イベント開催・運営は素人です。本業とプライベートの時間をなんとかやりくりして、ことにあたっています。『良い本を読者に届けたい。大好きな出版業界を元気にしたい』という熱い思いをもって、手弁当でそれぞれの役割を果たしています。不十分な点も目につくかもしれませんが、出展社様も来場書店様も『同じ思いをもった仲間』として、改善に向けたアドバイスをいただき、今後永く一緒に育てていってくださいますようお願いいたします」と今後に向けた思いを語っていました。



子どもたちへ <あしたの本>プロジェクト 陸前高田市に 「にじのライブラリー」開設！

◆去る11月12日(土)、岩手県陸前高田市の今泉天満宮境内に子どもたちのための仮設木造図書館「にじのライブラリー」(館長：荒木真幸 同天満宮宮司)が開館しました。運営は、「子どもたちへ<あしたの本>プロジェクト」と「<大震災>出

版対策本部」(常任委員長：相賀昌宏 小学館社長)、地元スタッフが、地元行政や教育委員会の協力を得てこれにあたります。木目のきれいな木造平屋建て106㎡の建物は、三井物産株式会社より寄贈されたものです。

開設当日の式典は、13時45分に開会。運営側代表の野上暁・日本ペンクラブ常務理事は、挨拶で「大地震と津波で大きな被害を受けた陸前高田市に、読書施設を開設できたことは、我々の活動の象徴的な取り組みでもある。厳しい環境におかれている子どもたちや市民の皆さんに、大いに活用していただきたい」と話しました。



つづいて、来賓の陸前高田市教育委員会 金賢治次長(教育長職代理者)から「陸前高田市の社会教育施設は、すべて流されてしまった。ここに子どもたちが安心して過ごせる図書館ができたことは、子どもたちや若い親御さん方にとってどれほど嬉しいものか。これからの運営には、教育委員会もお手伝いしていくので、今後もよろしくお願いたします」との祝辞がありました。

ライブラリーの周りには、<あしたの本>プロジェクトが運営する移動図書館車や着ぐるみのかいけつゾロリ、バルーンパフォーマンスなどもお祝いに駆け付け、子どもたちも大いに楽しい時間を過ごしました。

来館した親子は、「以前、市の図書館には良く行っていましたが、流されてしまったのでさびしかった。建物もすてきなもので、これから親子でたびたび利用したい。楽しみです」と話していました。

翌13日(日)は、多くの親子連れで終日賑わったとの報告が、現地スタッフよりありました。

館内は、壁・床・天井の木目を生かしつつ、カラフルなテーブルやイス、ブロック・チェア、マットなどで明るく、親しみやすいものとなりました。書棚は、子どもが利用しやすく高さは110cmで揃えられています。

蔵書は、<あしたの本>プロジェクト・メンバーが厳選した絵本・児童書のほかに、<大震災>出版対策本部が旧赤坂プリンスホテルに設置していた「虹のライブラリー」で好評だったコミックや大人向けの一般図書などを加えました。今後も、随時補充し、蔵書の充実を図ります。ライブラ

リーのキャパシティは3,000冊です。

また、入口に掲げられた看板は、絵本作家のかこさとしさんに揮毫いただきました。たいへんかわいらしい、「子どもライブラリー」の象徴になるものです。



<「にじのライブラリー」開設の背景と経過>

陸前高田市は、東日本大地震と大津波で町全体とともに、市立図書館も建物・職員が甚大な被害を受けました。また、今泉天満宮も、社そのものが完全流失し、樹齢800年の「天神の大杉」が境内になんとか残ったのみです。波をかぶってしまった大杉は、塩害により、一時枯れかけましたが、造園専門家の適切な対処により、根や枝先に新たな息吹を見ることができるようになりました。この街の800年を見守り続けた「天神の大杉」に寄り添うように新たな読書環境をつくり、地元子どもたちとともに、陸前高田の復興を見守り続けたいというものです。

運営は、<あしたの本>プロジェクトと<大震災>出版対策本部が、蔵書をはじめ図書館運営に必要な各種設備・備品を手配し、地元スタッフに業務を委託します。

陸前高田市並びに同教育委員会も、「各種情報の周知」「市内の他仮設図書館や学校図書館との連携促進」「ボランティア活動の側面的支援」などで「にじのライブラリー」の運営に協力します。

- 1.所在地 陸前高田市気仙町字中井2番地、
電話：0192-55-3203
- 2.開設日・時間 土日祝：10時～16時、
水曜日：13時～18時(当面の間)

NEWS!についてのお問合せや詳細資料ご希望の方は、事務局までお申し付け下さい。

JPIC HPアドレス：<http://www.jp-pic.or.jp>

賛助会員社様のイベント情報掲載します!

文責：中泉 淳(nakaizumi@jp-pic.or.jp)